

15 上下水道

上水道

1 上水道事業の沿革

大正9年12月に近代水道創設認可を受け、大正10年12月、島内青島の湧水を水源とする計画給水人口6万人の上水道布設工事に着手し、大正12年9月に一部給水を開始しました。

その後、昭和29年の近隣13か村合併による簡易水道の統合、人口増加や市民生活向上による水需要急増に対処するため、拡張事業を繰り返し進めてきました。そして、昭和48年には、日最大給水量が計画水量を上回る状況がみられたことから、新たな安定水源を確保する必要から、昭和49年2月に、長野県企業局と松塩水道用水供給事業協定を締結し、松塩水道用水を昭和57年度から受水を開始するとともに、本市が保有する6か所の自己水源と合わせ、効率的な水運用を行っています。

平成10年4月からは、下水道事業の公営企業化に伴い、上・下水道事業の組織を統合し「上下水道局」として新たにスタートしました。

さらに、平成17年4月には、四賀村、梓川村、安曇村及び奈川村と平成22年3月には波田町と合併し、松本市の水道事業は、松本地区、四賀地区、梓川地区及び波田地区の4事業となりました。

平成25年4月から、松本地区において耐震化事業に着手し、災害対応病院及び医療救護所への給水ルートを含めた主要水道施設の耐震化を進めています。

さらに平成27年4月には、安曇・奈川地区等の簡易水道事業を統合しました。

平成29年3月、将来にわたってサービスの提供を安定的に維持することが可能となるよう、経営の基本計画として松本市水道事業経営戦略を策定、平成30年3月には、安定した水道事業経営の継続を維持するため、中長期的な更新需要や財政収支の見直しを検討し、松本市水道事業アセットマネジメント（資産管理）を策定しました。

また、今後の厳しい経営見通しを踏まえ、専門家や使用者の意見等を経営に反映し、さらなる効率化と見える化を図るため、平成31年3月に松本市上下水道事業経営審議会を設置しました。

そして、新たな取り組みとして、水道施設の未利用再生エネルギーを有効活用するため、令和元年には、松塩用水の本山浄水場からの高低差を利用した小水力発電設備を寿配水地に設置し、発電を開始しています。

令和3年2月、第2期松本市水道ビジョンを策定し、SDGsの推進と水道DXを新たな視点に加え、「おいしい水をそのままに 未来へつなぐ安全・強靱な水道」を目指しています。

2 事業の概要

(令和3年度末現在)

	松本地区	四賀地区	梓川地区	波田地区	合計
行政区域内人口	202,408人	4,146人	14,329人	15,462人	236,345人
現在給水人口	201,676人	4,100人	14,227人	15,333人	235,336人
年間総配水量	25,164,551m ³	556,109m ³	1,742,243m ³	1,560,367m ³	29,023,270m ³
1日平均配水量	68,944m ³	1,524m ³	4,773m ³	4,275m ³	79,516m ³
年間有収水量	22,159,352m ³	377,440m ³	1,382,013m ³	1,483,357m ³	25,402,162m ³
計画取水量 (認可値)	松塩水道用水 63,000m ³ /日 自己水源7カ所 19,057m ³ /日	水源6カ所 (2,360m ³ /日)	水源21カ所 (7,844m ³ /日)	水源6カ所 (9,020m ³ /日)	水源41カ所 (101,281m ³ /日)
	計82,057m ³ /日				

※行政区域内人口の合計は、松本市人口統計の合計と一致しない。

3 取水状況

(各年度末現在) (単位：m³・%)

区分	元年度		2年度		3年度			
	年間取水量	構成比率	年間取水量	構成比率	年間取水量	構成比率	対前年比	
合計	30,008,284	100.0	29,873,425	100.0	29,023,270	100.0	97.2	
松塩水道用水	23,046,596	76.8	22,821,789	76.4	22,783,752	78.5	99.8	
自己水源	深井戸	2,741,238	9.1	2,727,861	9.1	2,542,211	8.8	93.2
	浅井戸	1,353,962	4.5	1,455,587	4.9	847,731	2.9	58.2
	その他	2,866,488	9.6	2,868,188	9.6	2,849,576	9.8	99.4

※その他(表流水、伏流水、湧水、ダム水)

※平成27年度から旧簡易水道事業区域等を含む。

4 有収水量及び原価等

	元年度	2年度	3年度
給水収益(A)(千円)	4,160,005	4,145,179	4,130,827
販売原価(B)(千円)	4,201,624	4,249,817	4,248,023
年間有収水量(C)(m ³)	25,489,678	25,558,768	25,402,162
1m ³ 当たり供給単価A/C(円)	163.20	162.18	162.62
1m ³ 当たり給水原価B/C(円)	164.84	166.28	167.23

5 水道事業比較損益計算書

(単位：千円)

区 分	元年度	2年度	3年度
1 営業収益	4,427,534	4,429,209	4,403,392
2 営業費用	4,639,637	4,676,349	4,675,145
営業利益	△212,103	△247,140	△271,753
3 附帯事業収益	6,980	21,119	20,520
4 附帯事業費用	824	10,046	10,060
5 営業外収益	636,604	609,676	591,412
6 営業外費用	171,574	158,101	139,901
経常利益	259,083	215,508	190,218
7 特別利益	1,235	2,636	1,199
8 特別損失	1,577	3,287	2,675
当年度純利益	258,741	214,857	188,742
前年度繰越利益剰余金	235,830	494,570	379,426
その他未処分利益剰余金変動額	163,570	0	434,183
当年度未処分利益剰余金	658,140	709,427	1,002,351

※端数調整のため、計が一致しない場合があります。

6 水道料金及び分担金

(1) 水道料金

準備（基本）料金		水量料金				
口径	1カ月につき	種別・用途別		水量区分	1m ³ につき	
13mm	858円	専用給水装置	一般用	口径25mm以下	10m ³ 以下の部分	71.5円
20mm	2,090円				10m ³ を超え20m ³ 以下の部分	115.5円
25mm	3,850円				20m ³ を超える部分	176円
30mm	8,250円			口径30mm以上		176円
40mm	14,300円			浴場営業用		55円
50mm	22,000円			臨時給水		440円
75mm	52,800円			共用給水装置		71.5円
100mm	90,200円					
150mm	198,000円					

(2) 分担金

令和元年10月1日改定

水道メーター口径	松本地区	四賀地区	梓川地区	波田地区	安曇地区
13 mm	31,400 円	110,000 円	110,000 円	123,200 円	110,000 円
20 mm	83,800 円	165,000 円	176,000 円	246,400 円	165,000 円
25 mm	167,600 円	275,000 円	330,000 円	491,500 円	286,000 円
30 mm	293,300 円	385,000 円	429,000 円	814,600 円	440,000 円
40 mm	565,700 円	660,000 円	638,000 円	1,630,500 円	704,000 円
50 mm	838,100 円	1,100,000 円	1,067,000 円	2,364,700 円	990,000 円
75 mm	2,095,200 円	2,200,000 円	2,145,000 円	4,730,600 円	1,870,000 円
100 mm	4,190,500 円		4,290,000 円		2,750,000 円

7 松本地区水道施設耐震化事業

(1) 経過と現状

松本市周辺には、マグニチュード 7.6 程度の地震が発生すると予想される活断層があることから、大規模地震が発生した場合でも、水道施設への被害を最小限に抑えるとともに、被災時に水道水が早期に供給できるよう、市街地の主要な水道施設について耐震化整備を行います。

(2) 事業の概要

- ア 事業年度 平成 25 年度から令和 12 年度
- イ 事業内容 配水地及び減圧槽 15 カ所、水源地 2 カ所、基幹管路及び重要給水施設配水管 約 11.2 km

8 マイクロ水力発電事業

(1) 経過と現状

令和元年度から稼働している「寿配水地小水力発電所」に続き、未利用の再生可能エネルギーの活用を模索し、上水道施設の高低差を利用した水力発電を行うことで、温室効果ガスの一つである CO₂ 削減を図り、低炭素社会の実現を目指します。

(2) 事業の概要

- ア 事業年度 令和 2 年度から令和 7 年度
- イ 事業内容 令和 3 年度 上水道施設の発電可能性調査を実施
令和 4 年度 事業方針決定（基本設計）
令和 5 年度 実施設計
令和 6～7 年度 マイクロ水力発電設備設置工事着手

※上水道施設の発電可能性調査及び基本設計の結果を踏まえ、費用対効果が見込める場合、事業化する計画としています。

9 生活基盤施設耐震化事業（波田地区水道事業）

(1) 経過と現状

波田地区の基幹管路うち、布設後 40 年以上経過している塩化ビニール管が残存しており、地震等の災害時、多大な被害を受けることが予想されるため、国の補助事業（生活基盤施設耐震化事業）を活用し、基幹管路（配水本管、送水管）の耐震化に取組み、事業は令和 3 年度で完了しました。

(2) 事業概要

- ア 事業年度 平成 30 年から令和 3 年
- イ 事業概要 送配水管延長 L=3.6km

下水道

10 下水道事業の沿革

松本市の下水道は、昭和 25 年 11 月宮渚処理区の事業認可(144ha)を受け、松本城周辺の市街地を中心に公共下水道事業に着手、昭和 29 年 5 月に排水を開始し、昭和 34 年 8 月には宮渚浄化センターで汚水処理を開始しました。さらに、南部地区の市街化区域内における下水道整備区域の拡大を図るため、昭和 57 年 5 月に両島処理区の事業認可(258ha)を受け、昭和 59 年 6 月管渠工事に着手し、昭和 63 年 10 月両島浄化センターで汚水処理を開始しました。以来、処理区の拡大に合わせ浄化センターの整備を進めてきました。

市街化調整区域の下水道整備は、昭和 61 年 11 月に特定環境保全公共下水道の事業認可(26ha)を受け、昭和 62 年 1 月管渠工事に着手し、順次整備区域の拡大を図ってきました。

このような下水道の整備の進展とともに、事業の効率的運用と施設の適正な管理を目指し、平成 10 年 4 月から地方公営企業法を適用し、水道事業と組織統合しました。

平成 17 年 4 月に周辺 4 村と、平成 22 年 3 月に波田町と合併したことにより、本市の下水道事業区域は、松本・四賀・安曇（上高地）・梓川及び波田の 5 地区、6,312ha となりました。

事業区域内の整備は平成 12 年度末に概成し、現在は施設の長寿命化及び耐震化に重点を置き進めております。

また、ゼロカーボン推進に向け、再生可能エネルギーの有効利用として、汚泥消化過程で発生する消化ガスを燃料とした発電施設整備を進めてきました。

宮渚浄化センターでは平成 28 年度末に消化ガス発電施設の増設工事が完了して、現在 4 基の発電機が稼働して場内電力利用をしています。

両島浄化センターでは平成 27 年 2 月から消化ガス発電を始め、再生可能エネルギーの固定価格買取制度による売電をしています。

さらに、宮渚浄化センターでは令和 2 年度に、新たに太陽光発電設備を設置し、発電した電気を場内利用することで、地球温暖化防止対策に効果を発現しています。

今後も引き続き、浄化センター施設の消化ガス発電および太陽光発電による再生可能エネルギーの活用を推進し、長期展望のもと経営のさらなる効率化に努めていきます。

11 事業の概要

(令和3年度末現在)

	松本地区	波田地区	四賀地区	安曇地区	梓川地区	合計
行政区域内人口	202,408人	15,462人	4,146人	1,304人	12,413人	236,345人
排水可能人口	201,124人	15,175人	1,021人	16人	12,365人	229,701人
年間総処理水量	35,699,738 m ³	1,292,328 m ³	89,741 m ³	141,455 m ³	1,093,022 m ³	38,316,284 m ³
1日平均処理水量	97,808 m ³	3,541 m ³	246 m ³	602 m ³	2,995 m ³	105,192 m ³
年間有収水量	24,286,308m ³	1,336,402m ³	81,369m ³	109,296m ³	1,062,803m ³	26,876,178m ³
処理場・処理能力	宮沢浄化センター 82,200 m ³ /日 両島浄化センター 32,850 m ³ /日 (計) 115,050 m ³ /日	波田浄化センター 5,400 m ³ /日	四賀浄化センター 630 m ³ /日	上高地浄化 センター 1,400 m ³ /日 稼働日数244日	犀川安曇野 流域下水道安曇野 終末処理場 (松本市 ・安曇野市)	

※ 行政区域内人口の合計には、奈川地区の612人を含む。

12 下水道事業比較損益計算書

(単位：千円)

区 分	元年度	2年度	3年度
1 営業収益	5,258,823	5,201,654	5,221,060
2 営業費用	5,345,642	5,403,786	5,445,929
営業利益	△86,819	△202,132	△224,869
3 附帯事業収益	79,072	78,854	72,238
4 附帯事業費用	41,887	34,452	50,560
5 営業外収益	1,522,763	1,525,548	1,568,184
6 営業外費用	618,907	531,243	443,495
経常利益	854,222	836,574	921,498
7 特別利益	10,424	9,996	7,367
8 特別損失	3,188	5,664	2,994
当年度純利益	861,458	840,907	925,871
前年度繰越利益剰余金	369,543	331,001	441,908
その他未処分利益剰余金変動額	578,317	496,546	565,972
当年度未処分利益剰余金	1,809,318	1,668,453	1,933,751

13 水洗化状況

(令和3年度末現在)

処理区域内人口 (A)	水洗化人口 (B)	水洗化率 (B)÷(A)
229,701人	226,838人	98.8%

14 下水道受益者負担金及び受益者分担金

(1) 下水道受益者負担金

・負担区における単位負担金及び負担区設定年度

負担区	単位負担金	負担区設定年度	公告年月日・公告番号
中央負担区	130円	昭和46年度	昭和46年6月30日・第69号
浅間・白板負担区	130円	昭和54年度	昭和54年7月11日・第126号
北部負担区	230円	昭和54年度	昭和54年7月11日・第127号
北部第2負担区	340円	昭和61年度	昭和61年8月20日・第196号
南部負担区	360円	昭和63年度	昭和63年9月8日・第330号
南栗負担区	460円	昭和63年度	昭和63年9月8日・第330号
西部負担区	360円	平成3年度	平成4年2月28日・第110号
南部第2負担区	360円	平成3年度	平成4年2月28日・第110号
西南負担区	460円	平成3年度	平成4年2月28日・第110号
西部第2負担区	380円	平成5年度	平成6年2月22日・第72号
東西負担区	490円	平成5年度	平成6年2月22日・第72号

- ・負担率 事業費の5分の1
- ・納付期間 年4回で5年間(延20回)
- ・徴収開始 昭和46年度

波田処理区

負担区	面積割	均等割	条例制定日
第1～4負担区	340円	200,000円	平成6年9月21日

- ・納付期間 年4回で5年間(延20回)
- ・徴収開始 平成6年度

(2) 下水道受益者分担金

処理区	面積割	均等割	条例制定日
四賀処理区	—	370,000円	平成10年12月22日
梓川処理区	270円	420,000円	平成10年12月21日

- ・納付期間 四賀地区 接続時に納入
梓川地区 年4回で5年間(延20回)
- ・徴収開始 四賀地区 平成11年度
梓川地区 平成11年度

15 水洗便所等築造資金融資あっせん事業

- (1) 水洗便所の早期普及を促進し、環境衛生の向上を図るため、昭和39年度から水洗便所等築造資金貸付基金を制定し、その基金の運用により市が直接水洗便所築造資金の貸付を行ってきました。
- (2) 平成3年6月にこの制度を廃止し、新たに水洗便所等築造資金融資あっせん制度を制定し、金

融機関による融資あっせん制度に改め、平成8年7月から融資額の引上げを行いました。

(3) 平成17年4月から四賀処理区においても本制度を適用し、梓川処理区、波田処理区においては、別条例で同様の融資あっせんを行ってきました。

(4) 平成23年4月からは、融資金額及び償還回数を見直し、関係要綱の統合を行いました。

- ・融資限度額 80万円
- ・利子 全額利子補給
- ・返済期間 60カ月以内
- ・返済方法 元金均等月賦償還
- ・取扱金融機関

(松本市内) (株)長野銀行、長野県信用組合、松本信用金庫、
松本ハイランド農業協同組合、あづみ農業協同組合

16 下水道使用料

(1) 松本地区

種別	料金	基本料金		超過料金 (1㎡につき)		摘要
		汚水排水量	金額			
一般	水道水給水及び井戸水給水の場合	10㎡以下	1,452円	11㎡~30㎡	169.4円	井戸水給水の場合は動力揚水によるもので認定
				31㎡~50㎡	198円	
				51㎡~100㎡	214.5円	
				101㎡~300㎡	231円	
				301㎡以上	248.6円	
	井戸水給水の場合	家族等4人まで	3,146円	1人につき	781円	家事専用で動力によらないもの
	公衆浴場	1㎡につき	20.9円	—		井戸揚水の場合は認定

(2) 四賀地区

種別	料金	基本料金		超過料金 (1㎡につき)
		汚水排水量	金額	
一般汚水		10㎡以下	3,564円	136.4円

(3) 安曇（上高地）地区

区分	基本料金		汚水等量料金 (1m ³ につき)	
	排水人口	金額	汚水等量	金額
排除使用者等	1 人	5,236円	3,000m ³ まで 3,001m ³ 以上	240.9円 419.1円
	2 人～ 4 人	10,472円		
	5 人～ 9 人	20,944円		
	10 人～ 12 人	26,180円		
	13 人～ 39 人	68,090円		
	40 人～ 79 人	94,281円		
	80 人～ 99 人	125,708円		
	100 人～ 109 人	188,562円		
	110 人～ 119 人	199,045円		
	120 人以上	225,236円		
投入使用者等	1 人	2,090円	1m ³ につき	15,714.6円
	2 人～ 4 人	5,236円		
	5 人～ 19 人	15,708円		
	20 人～ 39 人	20,944円		
	40 人以上	26,180円		

(4) 梓川地区

料金 種別	基本料金		超過料金 (1m ³ につき)	
	汚水排水量	金額		
一般汚水	10m ³ 以下	1,760円	11m ³ ～30m ³	220円
			31m ³ ～50m ³	231円
			51m ³ ～100m ³	242円
			101m ³ ～300m ³	253円
			301m ³ 以上	264円
一時使用			1m ³ につき	264円

(5) 波田地区

料金 種別	基本料金		超過料金 (1m ³ につき)	
	汚水排水量	金額		
一般用	10m ³ 以下	2,057円	11m ³ ～20m ³	178.2円
			21m ³ ～30m ³	184.8円
			31m ³ ～40m ³	202.4円
			41m ³ 以上	220円
一時使用			1m ³ につき	220円

17 浄化センター

(令和3年度末現在)

区 分	宮渕 浄化センター	両島 浄化センター	四賀 浄化センター	上高地 浄化センター	波田 浄化センター
処理能力(事業計画) (日最大・m ³ /日)	82,200	43,800	630	1,400	5,400
現在処理能力 (日最大・m ³ /日)	82,200	32,850	630	1,400	5,400
進捗率(%)	100	75	100	100	100
処 理 方 式	標準活性汚泥法		オキシデーショ ンディッチ法	回 分 式 活性汚泥法	オキシデーショ ンディッチ法